

# 第35回全日本大学男子選手権大会

## 日本体育大 (東京)



# 2年ぶり23度目の優勝!

平成12年8月5日(土)～7日(月) 香川県丸亀市/丸亀市土器川河川敷グラウンド

日ソ協記録委員 山崎 修

標記大会は、去る8月5日(土)～7日(月)、香川県丸亀市の土器川河川敷グラウンドに、全国的精鋭32チームを迎え、灼熱の太陽の下、手に汗握る熱戦が繰り広げられた。

大会は、昨年の覇者・立命館大(京都)の連覇成るか、準優勝の早稲田大(東京)が雪辱を果たして王座に登り詰めるか、過去22回の最多優勝回数を誇る日本体育大の巻き返し成るかに注目が集まった。

ところが、連覇をめざす立命館大は準々決勝で関西大(大阪)に1-3で不覚を取り、「今年こそ!」と意気込む早稲田大も2回戦で早々と姿を消すなど、波乱含みの展開となり、混戦模様の大大会となった。

準決勝には、昨年の覇者・立命館大を破って波に乗る関西大。2回戦、準々決勝と僅差の競り合いをモノにして勝ち上がった東海大(神奈川)。2年ぶりの王座奪回へ燃える日本体育大。早稲田大、国士館大(東京)と強豪を連破し、勢いに乗る福岡大(福岡)。以上の4チームが勝ち上がった。

準決勝、関西大対東海大は4回の攻防が明暗を分けた。先攻の関西は、一死から3番・小島が二塁打を打ち、絶好の先制機を迎えながら、4番・高橋、5番・川村が連続三振。得点することができなかつた。

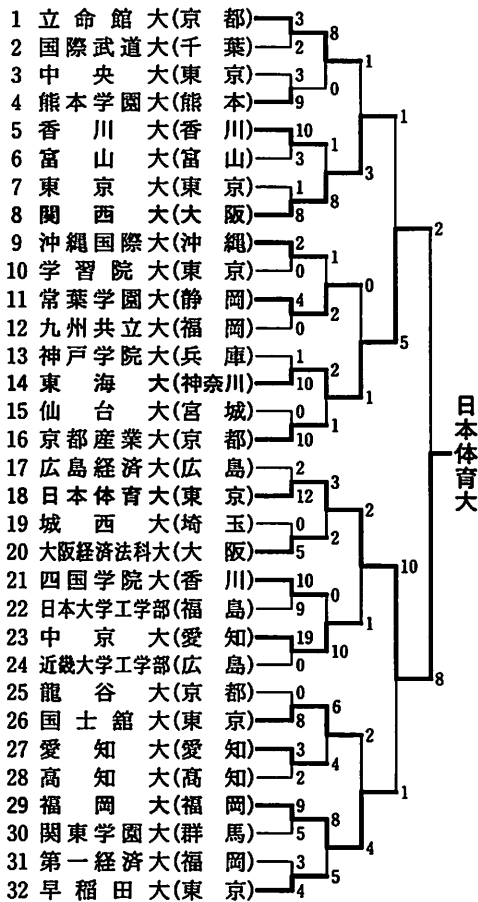
一方、東海はその裏、二死から4安打を集中させる底力を見せ、大量5点を挙げ、そのまま逃げ切った。

もう一方のゾーン、福岡大対日本体育大は、日体が初回、福岡・澤岬の制球の乱れにつけ込み、二死一・二塁のチャンスをつかみ、5番・花田の左中間本塁打で先制。さらに3回にも再び花田が2打席連続となる3点本塁打を打ち、続く4回にも上位打線の活躍で4点を追加。一方的な試合となった。

一方、福岡は頼みのエース・澤岬が四死球で走者をためては一発を食らうという最悪の展開。3回に1点を返し、完封を免れるのがやっとだった。

決勝は、日体大対東海大の関東勢同士の顔合わせとなったが、先手を取ったのは日体。初回、先頭打者・津本がいきなり右中間を破る二塁打。一死後3番・川口も鮮やかに左中間を破り先取点を挙げると、さらに4番・杉田のタイムリー、敵失で2点を加え、この回3点を先制。これで火のついた日体打線は、2回に1点、3回には3番・川口、4番・杉田の連続本塁打で2点と打ちまくり、東海・林をKO。5回にも2番手として登板した白井を容赦なく攻め、2番・佐藤の中越二塁打、3番・川口の右中間突破の鮮やかな三塁打で瞬く間に1点を追加。一死後、5番・花田のタイムリーで決定的な8

第35回 全日本大学男子選手権大会



福岡大	0	0	1	0	0	0	0
日本体育大	3	0	3	4	0	0	X
	10	1					

◎準決勝

(審) P宮本 1高田 2新名 3峠  
(記) 植田

▽日小島(関)

(東) ●星-高橋  
(東) ○林-渡辺

関西大	0	0	0	0	0	1	0
東海大	0	0	0	5	0	0	X
	5	1					

◎準決勝

点目を挙げた。  
東海も最終回、代打攻勢で2点を返し、意地を見せたが反撃もここまで。日体が2年ぶり23度目の優勝を飾った。

東海大	0	0	0	0	0	0	2
日本体育大	3	1	2	0	2	0	X
	8	2					

◎決勝

(福) ●澤岨・中尾-太田  
(日) ○川口-杉田  
▽困花田②(日) 日江上、太田(福)  
日岡、津本、杉田(日)  
(審) P三崎 1森井 2平賀 3進藤  
(記) 横田

東海大	0	0	0	0	0	0	2
日本体育大	3	1	2	0	2	0	X
	8	2					

(東) ●林・白井・庄司-渡辺  
(日) ○川口-杉田

▽困川口、杉田(日) 日川口、岡(日)  
日小池(東) 津本、佐藤、川口(日)

2000~2001年度版

オフィシャルソフトボール  
ガイドブック

好評発売中! ●B5判/206頁/頒価3,000円

- <内容>
- ◇日ソ協理事・監事・評議員一覧
  - ◇日ソ協・各支部協会専門委員一覧
  - ◇日ソ協寄附行為、チーム登録規定、審判・記録・指導者規定
  - ◇全日本大会開催の手引き
  - ◇各種全日本大会の記録etc

OFFICIAL  
SOFTBALL  
GUIDE  
BOOK

OFFICIAL  
SOFTBALL  
GUIDE  
BOOK

お申し込みは日本協会または各都道府県支部協会へ